

## 世界遺産アカデミー認定講師 File No. 1

このコーナーでは、マイスターの称号を得て全国で積極的に啓蒙活動をされている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当て、お話を伺います。第1回目となる今回は、第1期認定講師の片岡英夫さんにお話を伺いました。

### ——ガイダンスで大切なのは、

#### 「学ぶ楽しさ」と「知る面白さ」

千葉県内の市民大学や自治体などで、世界遺産アカデミー事務局からの派遣される形で、または個人的に依頼を受けて、世界遺産に関する知識や意義を講演したり、世界遺産検定3級の検定対策などをレクチャーしたりしています。毎月2、3回ほど、1年間におよそ30ヶ所から依頼を受けます。1回のガイダンスは、約90分程度のもものがほとんどですが、15分か10分程度の休憩を挟んだ2時間のものなどもあり、先方からの依頼内容に応じて、形式はさまざまです。

やはり世界遺産そのものに興味がある方や世界遺産検定を受検される方が殆どです。最近では地方自治体が生涯学習としての世界遺産に注目しているので、市民講座といったものの需要が高まっていますね。ただ、世界遺産アカデミーから依頼されるガイダンスと自治体から依頼されるものとは、期待される内容に若干の違いがあります。アカデミーの方は主に検定の意義について話すのに対し、自治体の方は検定の話だけでなく、特定のテーマを切り口として世界遺産について講演しています。そこは適宜変わってきますが、基本的には、伝える内容として、世界遺産を「学ぶ楽しさ」と「知る面白さ」を欠かさず入れるようにしています。また、知識を淡々と述

べるよりは、世界遺産の面白さを熱意をもって伝えるようにしています。きれいに話すというよりも、自分自身が面白いと思っていることを伝えるほうが相手に伝わります。

最近ではマスメディアによって、多くの人に世界遺産が知られていることは嬉しいことです。その一方で、その場所に行ってみないと分からないものがあります。たとえば、暑さや吹き抜ける風や大地の香り。あるいは現地の方の考え方や生活スタイル、土着文化などです。私自身200ヶ所近くの世界遺産を訪れているのですが、その経験を活かしてガイダンスでは実際の生活に密着したものや、自分が旅先で感じたことなどもお話をしています。

### ——マイスターとしての自分の在り方

もともと私は地理検定試験の名誉博士の称号を持っているのですが、単に知識を蓄積していくだけでなく、何か社会活動に貢献したい、自分の世界を超えて一歩進みたいと思った時に、世界遺産検定に出会いました。

もちろんマイスターになるのは簡単なことではなくて、人生をかけて必死で勉強しました。そうしてマイスターとなってみると、資格を得た喜び以上にそれを使って何かしようと思ったわけです。逡巡の末、世界遺産検定を発展させること、世界遺産の大切さを広めていくことがひとつの答えだと思いました。

大切なのはマイスターになることではなく



片岡英夫さん

(世界遺産検定マイスター、旅行地理検定名誉博士、道の駅オライはすぬま観光大使)

て、マイスターとしてどう自分が在りたいか、ではないでしょうか。毎年、新規物件は増えますし、登録基準も変わってきます。また、次世代の認定講師やこれから検定を受ける人たちに指し示す、第1期生としての責務も感じます。世界遺産には未来の子孫へ繋いでいくという意義があります。その一歩として世界遺産検定が在って、認定講師としてその本質を伝えていくことが、世界遺産の保護にも繋がると思います。個人だけでの活動には限界がありますが、アカデミーや他の認定講師の皆さんと協力して、自分のできることを、また自分に与えられた仕事をこなしていこうと思っています。